

横浜市退職小学校長会



第73号

令和6年8月22日  
横浜市退職小学校長会  
会長 加納 多嘉美

ホームページアドレス



巻頭言



幻想の吉備津彦命

会長 加納 多嘉美

「旅先は奈良・京都だけ？  
私の岡山県も良いのよ。」と  
先輩から数冊の観光案内を頂  
き、出かけました。桃太郎伝  
説のモデル「吉備津彦命」を  
祀る多くの神社に心惹かれた  
からです。

総鎮守の吉備津神社前に到  
着。大岩の傍らの長い石段の  
上に提灯を吊り下げた朱塗り  
の山門があります。竹ぼうき  
を持つ人々とすれ違い、本殿  
を仰ぎました。出雲大社の二  
倍の規模。拜殿と本殿をつな  
ぐ大屋根は「比翼入母屋造」と  
いう全国唯一の様式で、反  
りが優美。ぽかんと玉砂利に  
立ち尽くすほど巨大でした。

「吉備津彦命」の祈禱殿の  
鳴釜神事への道は風の強い廻  
廊を五分程。右折して御竈殿  
です。白衣の女性が「お入  
なさいね。」と招いてくださり、  
赤々と燃える火に引き寄せら  
れました。重文建築の内部は  
煤けて真っ黒です。しめ縄の  
張られた竈に焚口は二つ。一  
つはお湯の大釜。二つ目は  
蒸籠が三段重ねの大釜で、正  
面には二メートル程の黒しや  
もじが掛かっています。「称宜  
さんいらした。」の声で緊張。  
神官の祝詞奏上と白衣の女  
性「阿曾女」の持つ米の筒が  
蒸籠で動き「ぐおおおん」と  
本当に鳴ったのです。独特の  
空気に包まれたのです。吉凶  
のお話と鬼伝説を伺いました。

（昔、吉備国に温羅という  
鬼がいて作物を奪い、人をさ  
らう等の悪行を重ねた。困窮  
する人々のために、大和朝廷  
は吉備津彦命という將軍を送  
り、討伐させた。温羅は鬼の  
城に立てこもり抗戦したが最  
後は首を切られ、その首を埋め  
た所が御竈殿である。）吉備津  
神社の桃太郎伝説です。但し  
御竈殿には後編となる謂れも  
あります。温羅の霊が「吾が  
妻、阿曾媛をして竈殿の神餅を  
炊かしめよ。人々に幸あらば裕  
に鳴り、禍あらば荒らかに鳴ろ  
う。」と告げたことで神事は始  
まったそうです。  
散々人々を苦しめた鬼がな  
ぜ占いで守ろうとするのか、な  
ぜ人々も温羅を祀り神事を現  
代まで継承したのか不思議で  
す。あの気さくな白衣の方は、  
まさか鬼の奥方の末裔？「吉備  
津彦」とは「吉備の津の男」の  
意味。土着の名前の英雄は、案  
外、皇子の称号を被る鬼の温羅  
のすり替わり？ 七世紀に大  
和朝廷から来た將軍の名は本  
当に「吉備津彦命」だったの  
でしょうか。  
幻想膨らむ岡山県吉備への  
二泊三日の旅でした。

完

八十歳を過ぎるの挑戦

宮下 一夫

狭い庭の一角に苗を植えて  
四年目になる。四方に勝手に  
伸びる枝の誘引と剪定、つま  
り、二番枝取り、むずかし  
くも楽しい房の整房、大つぶ  
の形の良い房を夢見て摘粒摘  
房、日に日に大きくなってい  
く房への袋がけ等、数々の世  
話をしたが、病害虫におかさ  
れて、満足のいく巨峰が取れ  
たことがなかった。今年は、  
うれしいことに、約七十余  
の房をつけた。収穫まで、  
また数々の挑戦が続く。

健康寿命のために

三田 紀子

高津区では、老若男女が様々な  
活動をしています。八十歳では熟  
年成人式があります。  
私も健康推進員として表彰され  
ました。現在も地域の高齢者施設  
を利用して、気軽に体操に來ても  
らえるように月に二回、一時間半  
の設定で脳トレも取り入れたり、  
色々なヒット曲に合わせたリズム  
体操の活動をしたりしています。  
休憩時間はしゃべったり笑ったり  
で盛り上がっています。楽し  
いと皆が続けています。

今年の課題

三浦 敬三

昨年の課題は「免許返納」  
でした。他人に迷惑をかけた  
り家族に負担させたりしない  
ように決行しました。そこで  
困ったのは墓参りです。私の  
墓は近くにありますが、先祖  
代々の墓は福島にあり、観光  
がてらに行っていました。そ  
こで今年の課題は「墓じまい」  
です。しかし石屋さん(廃業)  
お寺(廃籍料)住職(お布施)  
こちらの寺(納骨料)というい  
ろの問題がありますが、今年  
も頑張ってみたいと思います。



子どもと  
絵本を読む

渡部 伸子

いつまでも子どもたちが本を  
読む楽しさを味わってほしいと  
思ったとき、子どもの為の図書  
館の存在を知りました。その図  
書館は東京中野にある東京子ど  
も図書館です。  
小さな図書館ですが、子ども  
のための図書がずらりと並ぶ児  
童室は、子どもたちが、すぐ本  
を手に取れるように配置されて  
います。私の役割は、子どもた  
ちが選んだ本を読む事です。絵  
本の絵を見ながら聴きながら子  
どもたちは本を楽しみます。